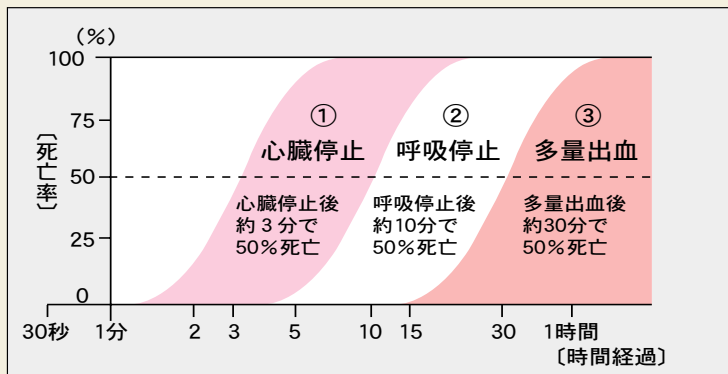


【表1】カーラーの救命曲線



**心肺停止後3分で
生存率は50%**

久慈消防署管内の救急車の出動件数は、平成16年で1445件。そのうち約75人が、家族や救急隊員などの前で心肺停止が確認されています。

村の平成16年の救急車の出動件数は73件。そのうち3人が心肺停止の状態でした。

左の表1は「カーラーの救命曲線」といい、心臓や呼吸が止まってから、何分経過すると命が助からないかを

曲線で示しています。①の曲線を見ると心臓停止後で応急手当が施されなかった場合、死亡率は3分で約50%、5分で約90%となっています。

**通報から現場まで到着は
村では平均8分**

では、救急車は119番通報から現場までどのくらいの時間がかかるのでしょうか。全国平均では約6分、岩手県で約7分、村では約8分となっています。久慈消防署普代分署から早いところで1分、遠いところでは15分かかるとのことでした。

つまり、心臓や呼吸が止まっていた場合、救急車が来るまで誰も何もしなければ、命が助からないことが表1から分かると思います。

しかし、その救急車が来るまでのわずかな時間で、わたしたちが1分1秒でも早く、心肺蘇生やAEDを使った電気ショックなどで応急手当を行えば、救える命があるのです。

**大切なのは早い通報と
素早い応急手当**

大切な命を救うために救急救命に必要なことは、その場所に居合わせたい人が、できるだけ早く119番に通報すると同時に、救急車が到着するまでの間、応急手当を行うことです。そして救急隊がそれを引き継ぎ、



久慈消防署普代分署
立白 勝 救急救命士

**皆さん
勇気を持って
行動してください**

皆さんは心肺停止している人に直面したとき、一番大切なことは何だと思いますか。それは、①早い通報（助けを呼ぶ）②皆さんの応急手当（迅速な心肺蘇生や除細動）③救急隊の救命措置④ 病院の救命治療——です。「救命の連鎖」といって、この4つの連携ができてはじめて効果があります。

でも、実際にそのような場面に直面すると「どうしたらいいかわからない」「何もしない方がいい」と考えてしまいがちですが、皆さんが何かをすればプラスになる可能性があります。勇気を持って行動してください。

AEDとは

心臓の心室がけいれんする心室細動で血液を送り出せなくなった心臓に電気ショックを与えて正常に戻す機器。大きさは30㍻四方の箱形(写真)で、持ち運びができ野外でも使用できます。電極パッドを患者の心臓を挟むように張り付けると、電気ショックが必要かどうか自動解析。音声に従いボタンを押すだけで仕組みは簡単です。

